

一般社団法人日本有病者歯科医療学会認定歯科衛生士 試験施行要綱

(趣 旨)

第 1 条 この要綱は、規則第 11 条の規定に基づき、認定歯科衛生士試験に関し必要な事項を定める。

(認定歯科衛生士試験の公示)

第 2 条 認定委員会による認定審査は、原則として毎年 1 回実施し、学会は 3 か月前までに認定歯科衛生士試験の公示を行うものとする。

(認定歯科衛生士試験)

第 3 条 認定歯科衛生士試験は書類審査、筆記試験、症例報告、口頭試問によって行われる。

第 4 条 申請者は、細則第 3 条の規定に基づき、認定歯科衛生士申請書類を委員会に提出し書類審査を受けなければならない。

(認定歯科衛生士試験の要件)

第 5 条 症例報告は、下記 13 症例とする。

1. 以下の (1)～(3) を満たす 3 症例
 - (1) 全身疾患を有する患者の口腔管理。(3 症例のうち少なくとも 1 症例は異なる疾患が含まれていること、また周術期症例が含まれていることが望ましい)
 - (2) 医科との連携のもとで治療を行っていること
 - (3) 摂食嚥下症例が含まれていることが望ましい
2. 全身管理下あるいは術中モニタリング下での歯科治療介助症例一覧 (10 症例以上)
 - (1) 医科との連携のもとで治療を行っていること
 - (2) 指導医または管理責任者のコメントを載せること

第 6 条 日本有病者歯科医療学会の会員であること

(認定歯科衛生士試験の判定)

第 7 条 認定委員会は提出書類、筆記試験、症例報告および口頭試問の内容により総合的な審査を行い、その可否を判定する。その結果を本学会理事会に報告し承認を得るものとする。

附 則 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

付 則 この要綱は、令和 7 年 3 月 14 日に一部改正した。